



広報しょくわで振り返る平成時代

広報しょくわ
600

特集・創刊600号記念企画

広報しょくわ第1号が、昭和39年5月1日に発行されて以来55年。多くの皆さまの支えのもと、昭和、平成と激動の時代を経て、新元号「令和」の新時代を迎え、今月号で創刊600号を迎えることができました。

平成が幕を閉じた今、昭和村が成長を続けてきた平成時代の激動のあゆみを、広報しょくわで振り返ります。

広報しようわで振り返る平成時代

第3セクターで運営する、村初めてのゴルフ場「昭和の森ゴルフ場」が営業を開始。また、木立に包まれて日頃の疲れをいやしてくれる「昭和の森山荘」もその後オープンしました。



昭和村は法定協には不参加



第7回任意合併協議会
22日夜に片品村で開催

広報号外

平成の大合併がさけばれる中、利根沼田地域でも任意合併協議会を設立。村でも、合併によるメリットやデメリットが真剣に議論されました。そして、市町村合併の村民アンケートを実施した結果、合併に賛成は19%、反対は60%に。村は、この民意を尊重し広域合併への不参加を表明しました。



村の玄関となる工業団地をコスモスでいっぱいに。村づくり協力委員会が主体となって種をまいたコスモス畑が満開となり、子育保育園の年長児が見学に訪れ楽しみました。



第1回昭和の秋まつりが開催され、約4,000人が来場しました。まつりの目玉、こんにゃく大鍋も4,000人分。横浜中華街からの出店や、元プロサッカー選手の木村和司さんのサッカー教室が好評でした。このイベントは村の40周年を記念して企画され、今では村の秋の一大行事に。

2003	2002	2000	1999	1998
15	14	12	11	10
<p>▼村が合併法定協議会に不参加を表明 10</p> <p>▼関屋工業団地内の「コスモス畑」が満開に 9</p> <p>▼学校で完全週5日制開始 8</p> <p>▼昭和の森ゴルフ場がオープン 8</p> <p>▼村初の家族経営協定締結 7</p> <p>▼旧南小学校跡地に、地域活性化センター完成 7</p> <p>▼村岩本駅前駐車場が完成 6</p> <p>▼農産物直売所「旬菜館」が開店 6</p> <p>▼第1回昭和の秋まつり開催（村40周年記念行事） 6</p> <p>▼総合福祉センター「昭和の湯」がオープン 5</p>				



13

昭和村が誕生して50年の節目を迎えたことを祝う、記念コンサートが昭和中学校体育館で開催。群馬交響楽団を招いて行われたコンサートでは、結成間もない村のコーラスグループ「コーラス・アンダンテ」も合唱を披露。会場が一体となり盛り上がりました。



14



第1分団と第3分団が、第17回群馬県消防ポンプ操法競技大会でそれぞれ優勝を飾り、村消防団初の県大会ダブル優勝を達成。ポンプ車の部で優勝した第1分団は、横浜市で開催された全国大会に出場し活躍しました。

12



大河原小学校が開校50周年を迎え、10年前の40周年を記念し埋めたタイムカプセルの開封式を行いました。出席した、当時の在校生や保護者らは、10年前の自分から贈られた手紙や作品を手に楽しく語り合いました。

総合運動公園ふれあいグリーンパーク「芝生広場」が完成。日本フットボールリーグJ2・ザスパ草津の鳥居塚選手らを招き、サッカー教室が行われました。

2011

23

▼ J-ALEERT (全国瞬時警報システム) 運用開始

▼ 東日本大震災

▼ 「日本で最も美しい村」連合に加盟

▼ 大河原小学校50周年でタイムカプセル開封式
14

▼ 緊急告知FMラジオの運用を開始

▼ 合併50周年記念式典、記念コンサートを開催
13

▼ 横浜市と防災応援協定を締結

▼ 心れあいグリーンパーク芝生広場が完成
12

▼ 群馬県消防ポンプ操法競技大会で村初のダブル優勝
11

平成

西暦

和暦

主な出来事

平成16年～平成31年

広報しようわで振り返る平成時代



A black and white photograph showing a group of people, including several children, participating in what appears to be a race or a community event. They are running along a path next to a river. In the background, there are trees and some buildings, suggesting a park-like setting.

村内外から約1,300人のランナーが参加し「第1回やさい王国昭和村河岸段丘ハーフマラソン」を開催。ランナーは新緑のコースを駆け抜けました。会場では村内各団体による「おもてなし」も好評で、その後、毎年開催されています。



19 地域のサロンとともに歩み らくらく筋トレ10周年



永井箱根神社の祭礼で奉納される
「太々神樂」。面や衣装などを新調し、
これからも保存会の方々の手によって
伝統が受け継がれていきます。



らくらく筋トレ体操の取組みが始まって10周年を迎える記念大会を開催。今では村内各地の「筋トレサロン」で健康づくりと交流に役立っています。

15

横浜市と友好交流協定を締結

NEWS FLASH

9月～10月

協定書に署名し、交換を認めていくことを知る相村辰七林田昌

横浜市と友好交流協定を締結。古くは、赤城林間学園の開設に遡る横浜市との交流は、この協定の締結で、さらに活発に交流を深めていくことを約束しました。



関東甲信越地方などで記録的な積雪となり、村内全域で農業用ビニールハウスの倒壊や農作物被害が続出。道路も通行困難となり生活に深刻な影響が出ました。

2019	2017	2016	2015	2014	2013	2012
31	29	28	27	26	25	24
▼改元「令和」へ 19	▼らくらく筋トレ10周年記念大会を開催 18	▼赤城山船ヶ鼻登山道開通 17	▼防災行政無線「防災しようわ」開局 16	▼第1回やさい王国昭和村河岸大な被害 15	▼横浜市と友好交流協定を締結 14	▼米国イーグルポイント市との友好姉妹都市5周年を祝し友好宣言に調印 13
						▼道の駅「あぐりーむ昭和」がオープン 12

広報しようわの誕生

昭和村が誕生したのは昭和33年11月1日。人口約1万400人、約1,700世帯でのスタートでした。早くもこの月の20日には、村初の広報となる「昭和村報」第1号が発行されています。それは、日本が戦後復興を目指すとともに、昭和村が新たなスタートを飾る喜びをにじませた創刊号でした。そこには、村の発展のため、村民に親しまれる広報活動を行う重要性も記されています。

それから6年後の昭和39年5月には、「広報しようわ」として装い新たに第1号が発行されています。それ以来、予算編成や役場・学校の人事異動、税金の申告、農業構造改善事業といった行政情報から、村民運動会や村内バレー・ボール大会といったイベントの話題、山菜の食べ方や、衣類の簡単な染み抜き方法といった生活の知恵に至るまで、多種多様な情報を掲載していました。

時代は平成に

広報しようわは、平成時代を迎える頃から、さらに充実した特集や連載などを掲載するようになります。

ページ数も増加してきました。たびたび群馬県の広報コンクールで第一席を受賞し、全国コンクールでの入選もありました。また、統合中学校（現在の昭和中学校）や各小学校の改築・耐震化、保育園の改築なども進む一方で、少子高齢化が進行しています。市町村合併を巡っては様々な意見が飛び交つことから、合併問題に焦点をあてた特集号や号外などを発行し、紹介しています。

この他、平成23年3月には東日本大震災が発生、平成26年2月には村内に甚大な被害をもたらした記録的な大雪があり、地域防災への関心も高まっています。

令和新時代へ

広報しようわは、写真の多い紙面構成になり、カラー・ページも少しずつ増え、村民の皆さんから限りないご協力をいただき発行してきました。ありがとうございます。

令和新時代を迎え、これからも村の歴史や時代の雰囲気、村民の皆さんとの表情などを形にするとともに、これからもご協力をいただきたいながら、より親しまれる「広報しようわ」を目指して発行していきます。

平成から令和へ 広報しようわは昭和村のあゆみとともに



広報しようわで振り返る平成時代

毎月パラパラと見て、知っている人が出ていると記事を読みますね。まず表紙を見て、裏表紙の子どもたちを見て、それから、うぶごえ・おくやみ欄(戸籍の窓口)を見ます。写真と見出しの見やすさは大事ですね。カラーページが増えてきたのは見やすくていいと思います。

青木みづきさん(森下中)



広報しようわへひとこと

皆さん日頃、広報しようわをどのように読んでくださっているか伺いました。



広報しようわが届いたら結構見ていますね。村内のイベント特集なども見ています。「はつらつトーク」に出たこともあります。その後、同級生から後輩へと、どんな人にまわっているかも見ていて面白いですね。村には大きい農家さんが多いため、そうした記事がもっとあってもいいですね。

林淳樹さん(生越)



毎月必ず見ています。子どもたちのことがたくさん載っているし、保育園でのイベントなどが見られるのが楽しいですね。それから、裏表紙の「すこやかちゃん」と「ちっちゃんこてん」も見ます。昭和村の広報は、子どもたちがもれなく、みんな平等に登場するんですね。

林夏子さん・花瑠ちゃん(上内出)

毎号読んでいますし、これまでの広報しようわはみんな保存しています。中学3年になる孫も毎号楽しみにしているようです。広報しようわは、行政情報としても、村の記録としても重要なものなので、これまで担当してこられた先輩方の思いも受け継ぎながら作っていってほしいですね。

竹之内重秋さん(伏田)



広報しようわはたまに読むくらいです。でも、柔道をやっているので、柔道大会や、今通っている昭和中学校の話題、中体連で活躍した生徒たちの記事などはよく見ますね。あとは、表紙の写真なども見ますが、やっぱりカラー写真が見やすくていいですね。

藤井瞳さん(吹張)

